

ヨハネの手紙第一5章16-17節 「罪を犯している人のための祈り」

1A 死に至らない罪 16

1B 兄弟の犯す罪

2B 神への願い

3B 死に至る罪

2A 不義の中にある、死に至らない罪 17

本文

ヨハネの手紙第一 5 章を開いてください、今晚は 16-17 節を学びます。「¹⁶ だれでも、兄弟が死に至らない罪を犯しているのを見たなら、神に求めなさい。そうすれば、神はその人にいのちを与えてくださいます。これは、死に至らない罪を犯している人たちの場合です。しかし、死に至る罪があります。これについては、願うようには言いません。¹⁷ 不義はすべて罪ですが、死に至らない罪もあります。」

私たちは、前回、信者たちに与えられている祈りの恵みについて見ました。14-15 節に書かれていましたが、みこころにかなう願いは、神は何事でも聞いてくださるということです。その中の一つが、罪を犯してしまっている兄弟のための祈りです。その罪から離れて、主に立ち返ることを祈る祈りですね。そのことについて、じっくりと見ていきたいと思えます。

1A 死に至らない罪 16

ここの 16 節と 17 節に書かれていることで目に引くのは、「死に至らない罪」という言葉と、「死に至る罪」があるということです。この違いも念頭に入れながら、兄弟たちのために祈ることを見いきます。

1B 兄弟の犯す罪

「死に至らない罪」について、ここでヨハネが明確に、「兄弟が」と言っているんですね。ここで明らかに、神によって生まれた者で、それゆえ同じ神の家族の中に入っている人が、死に至らない罪のことを話しています。対して、死に至る罪については、その犯している人が、兄弟であるという言及がありません。ここは大きな違いでしょう。

第一の手紙の中で、神によって生まれた者は罪を犯さないとヨハネは書いていました。「3:6 キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません。」「3:9 神から生まれた者はだれも、罪を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」

これは、一度も罪を犯さないということではなく、罪を犯したままでいることはできない、という意味であることは、同じ手紙の中で明らかです。「1:8-9 もし自分には罪がないと言うなら、私たちは自分自身を欺いており、私たちのうちに真理はありません。9 もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。」罪の告白、そして告白によって神による罪の赦しと不義からの清めをヨハネは教えています。また、こうも言っています。「3:19-20 そうすることによって、私たちは自分が真理に属していることを知り、神の御前に心安らかでいられます。20 たとえ自分の心が責めたとしても、心安らかでいられます。神は私たちの心よりも大きな方であり、すべてをご存じだからです。」そして、今、読んだ箇所も、「兄弟が死に至らない罪を犯している」と言っています。罪を犯していても、主に立ち返ったらいのちを得ることのできる人々です。

2B 神への願い

そのような人々のことについては、「神に求めなさい。そうすれば、神はその人にいのちを与えてくださいます。」と言っています。同じ神の共同体にいる者たちが、兄弟たちが罪を犯している仲間のために執り成すのは、大きな働きです。パウロがガラテヤ人への手紙でこう言っています。「6:1-2 兄弟たち。もしだれかが何かの過ちに陥っていることが分かったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。2 互いの重荷を負い合いなさい。そうすれば、キリストの律法を成就することになります。」柔和な心で、過ちを正すことは、互いの重荷を負い合うことであり、キリストの律法を満たすことになると言っています。キリストの律法とは、「互いに愛し合いなさい」という戒めです。

イエス様が、弟子たちにこのことを教えておられました。「マタ 18:15 また、もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って二人だけのところで指摘しなさい。その人があなたの言うことを聞き入れるなら、あなたは自分の兄弟を得たことになります。」私たちは、こうやって注意して行って、そのような注意を聞き入れることによって、いのちを得ることができるのです。ヘブル書 10章 24 節には、「愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。」と言っています。こうやって、私たちは互いに励まし合います。

死にかけたけれども、生きたという神の民の話が旧約聖書にあります。民数記 21 章の青銅の蛇の話です。イスラエル人が、水がない、マナに飽き飽きしたと不平を鳴らしたら、主が民の中に燃える蛇を送られました。噛みつかれた人の多くの人たちが死んでしまいましたが、民はモーセのところに来て、「私たちは主とあなたを非難したりして、罪を犯しました。どうか、蛇を私たちから取り去ってくださるよう主に祈ってください。」と願ったのです。それでモーセが祈ると、主が青銅の蛇を作って、それを旗竿の上に付けて、民がそれを仰ぎ見れば生きると約束されました。それで、モーセは作りましたが、「21:9b 蛇が人をかんでも、その人が青銅の蛇を仰ぎ見ると生きた。」とあります。このようにして、罪を犯したけれども、いのちを得た人々がいました。

3B 死に至る罪

しかし、罪を犯して死に至る人々もいました。ここでの「死」というのは、単に肉体的に死ぬということではなく、霊的に死に至るということです。「しかし、死に至る罪があります。これについては、願うようには言いません。」とヨハネは言っています。今、お話しした青銅の蛇のことは民数記に書かれていますが、同じ民数記 15 章 30 節には、「この国に生まれた者でも、寄留者でも、故意に違反する者は【主】を冒瀆する者であり、その人は自分の民の間から断ち切られる。」とあります。そして、安息日に薪を集めている男の話が出て来て、彼に対して、主が石打の刑を命じられました。これは、気づかずに犯してしまったような罪ではなく、故意に犯した罪でした。気づかずに犯した罪であれば、「15:28 主の前で宥めを行う。彼のために宥めを行い、その人は赦される。」という、宥めのいけにえによる罪の赦しが備えられていました。しかし、故意は民の中から断ち切られます。

ヘブル人への手紙では、新約聖書における故意による罪を次のように説明しています。「10:26 - 31 もし私たちが、真理の知識を受けた後、進んで罪にとどまり続けるなら、もはや罪のきよめのためにはいけにえは残されておらず、27 ただ、さばきと、逆らう者たちを焼き尽くす激しい火を、恐れながら待つしかありません。28 モーセの律法を拒否する者は、二人または三人の証人のことばに基づいて、あわれみを受けることなく死ぬこととなります。29 まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものと見なし、恵みの御霊を侮る者は、いかに重い処罰に値するかが分かるでしょう。30 私たちは、「復讐はわたしのもの、わたしが報復する。」また、「主は御民をさばかれる」と言われる方を知っています。31 生ける神の手の中に陥ることは恐ろしいことです。」ここの箇所で大変なのは、「まして、神の御子を踏みつけ、自分を聖なるものとした契約の血を汚れたものと見なし、恵みの御霊を侮る者」というところです。何をもち、「進んで罪にとどまり続け」ているのかというと、第一に、神の御子を踏みつける。第二に、契約の血を汚れたものと見なす。第三に、恵みの御霊を侮ることです。つまり、神に対して罪を犯したという程度のもではなく、御子キリストが血を流されたその恵みを注いでくださった御霊を侮ることなのです。

イエス様が、聖霊に逆らうことばを言う者は、赦されないとされたことがありました。「マタ 12:31-32 ですから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけますが、御霊に対する冒瀆は赦されません。32 また、人の子に逆らうことばを口にする者でも赦されます。しかし、聖霊に逆らうことを言う者は、この世でも次に来る世でも赦されません。」イエス様は、大胆にも、ご自身に対する冒瀆でさえ赦されると言われます。けれども聖霊への冒瀆は、赦されないとされます。それは、聖霊によって初めて、明らかに人々の心に、イエスが来るべきメシアご自身なのだと言われているからです。イエスがだれかを知らずに悪くいうならば、まだ赦す余地があります。けれども、イエスが明らかにキリストであることが、聖霊のなされるわざ、ここでは悪霊追い出しでしたが、明らかにされていて、この方以外に救いはないと分かっているのに、それでも拒むのです。つまり、イエスが肉体を取られた神、御子キリストであることの本質を拒んでいるのです。

第一の手紙には、このような、「死に至る罪」があります。偽預言者たちが、「反キリスト」と呼ばれていましたね。「2:22-23 偽り者とは、イエスがキリストであることを否定する者でなくてだれでしょう。御父と御子を否定する者、それが反キリストです。23 だれでも御子を否定する者は御父を持たず、御子を告白する者は御父も持っているのです。」そして、4 章でもはっきりと語っています。「4:1-3 愛する者たち、霊をすべて信じてはいけません。偽預言者がたくさん世に出て来たので、その霊が神からのものかどうか、吟味しなさい。2 神からの霊は、このようにして分かります。人となって来られたイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。3 イエスを告白しない霊はみな、神からのものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていましたが、今すでに世に来ているのです。」御子キリストを否定すること、この方が肉をもって来られたことを告白しない霊は、反キリストの霊であるとヨハネは言っています。

彼は、2 章 19 節では、彼らは元々、自分たちの仲間ではなかったと言っています。「彼らは私たちの中から出て行きましたが、もともと私たちの仲間ではなかったのです。もし仲間であったなら、私たちのもとに、とどまっていたでしょう。しかし、出て行ったのは、彼らがみな私たちの仲間でなかったことが明らかにされるためだったのです。」こういった者たちは、御霊を持たない者たち、分裂をもたらす者たちです。パウロも警告しています。「ロマ 16:17-18 兄弟たち、私はあなたがたに勧めます。あなたがたの学んだ教えに背いて、分裂とつまずきをもたらす者たちを警戒しなさい。彼らから遠ざかりなさい。18 そのような者たちは、私たちの主キリストにではなく、自分の欲望に仕えているのです。彼らは、滑らかなことば、へつらいのことばをもって純朴な人たちの心をだましています。」警戒しなさい、遠ざかりなさいと言っています。ですから、ヨハネもここで、そういった人たちを自分たちの仲間のようにして主に願う必要はないのだ、ということですね。ユダも手紙の中で話しています、「ユダ 19 この人たちは、分裂を引き起こす、生まれつきのままの人間で、御霊を持っていません。」

2A 不義の中にある、死に至らない罪 17

私たちはある意味、そうした、死に至る罪を犯している者たちもいながらにして、それでも、罪を犯している兄弟に、主に立ち返ってほしいという祈りを献げる者たちであります。ヨハネは「**17 不義はすべて罪ですが、死に至らない罪もあります。**」と言いました。

イエス様の、捕らえられる直前の祈りのことを思い出します。すべての弟子がイエス様を見捨てることとなります。ペテロは、鶏がなく前に三度、ご自身を知らないと言います。けれども、彼らが立ち返ることを祈られました。ペテロについては、具体的に信仰がなくならないように祈り、立ち直ったら兄弟を励ますようにとも言いつけました。反面、イスカリオテのユダについては、悔い改めることを願われながらも、もう滅んでしまうことも知っておられ、ユダと他の弟子たちとを分けて語っておられました。「ヨハ 17:12 彼らとともにいたとき、わたしはあなたが下さったあなたの御名によって、彼らを守りました。わたしが彼らを保ったので、彼らのうちだれも滅びた者はなく、ただ滅びの

子が滅びました。それは、聖書が成就するためでした。」イスカリオテのユダは、イエス様のそばに
いながら、実はイエス様を信じておらず(ヨハ 6:64)、彼が裏切ることも知っておられ、悪魔によっ
てそれを行うことも前もって語っておられました(6:70)。

けれども、同じような不義の中にも、他の弟子たちのことは、御名によって守ったとイエス様
は祈られています。彼らがどんな試みを受けていても、ご自身を見捨てても、それでも守られたの
です。キリストにあって神に選ばれている者は、このようにして主の前に、傷のない者として最後
には連れて来られます。「ユダ 24 あなたがたを、つまずかないように守ることができ、傷のない者
として、大きな喜びとともに栄光の御前に立たせることができる方、」私たちはその時まで、罪を犯
してしまっている兄弟のために、父なる神に願います。主が、その人たちを、また自分たちも、つま
ずかないように守って下さり、傷のない者として栄光の御前に、大きな喜びと共に立たせていただ
くことを期待できるのです。